

災害時の

高次脳機能障害のある方への支援



千葉県八高次脳機能障害関連ページ



POINT



- ・頭の病気やケガの影響で、脳の機能が十分に働かない状態です
- ・情報提供、移動時のサポートや、感情コントロールへの配慮も必要です
- ・お一人お一人違う症状なので、ヘルプカード等を参考に個別に支援内容を確認してご対応ください

災害時の

高次脳機能障害のある方への支援①

POINT



情報提供に関する支援のポイント



適切な情報に注目したり、素早く情報を理解することが難しく、放送や掲示物から必要な情報をキャッチすることが困難な場合があります

- ・ポイントをしぼる
- ・ゆっくり具体的に伝える
- ・絵や図、写真などを見せる
- ・メモに書いて渡す（記入日時、説明した人の名前を一緒に書く）

こんなときは…？

何度も同じことを聞く：いつも見える場所にメモを貼る、繰り返し説明する
言葉が出ずに困っている：選択肢を挙げる、絵や図を見せて（書いて）選んでもらう
書類の記入で困っている：見本をみせる、一緒に記入する

災害時の

高次脳機能障害のある方への支援②

POINT



移動に関する支援のポイント



場所を把握・記憶したり、周囲に注意を向けることが難しく
安全な移動が困難となる場合があります

- ・原則、目的地まで誘導する

こんなときは…？

移動準備に時間がかかる：「荷物は移動先で一緒に整理しましょう」と伝え、移動開始を優先する
行先を何度も聞いてくる：その都度説明する（書いてお渡しする）
周りの人や物にぶつかる：人ごみを避ける、支援スタッフが横について歩く

災害時の

高次脳機能障害のある方への支援③

POINT



感情や行動のコントロールに関する支援のポイント



頭が疲れやすい、情報処理が追いつかないなど様々な理由から、イライラをコントロールできない、自ら行動を起こせない、または自己判断で行動してしまう場合があります

- ・ 静かな場所に誘導して落ち着かせる
- ・ 冷静になってから話を聞く
- ・ 情報は「ゆっくり具体的に」※高次脳のある方への支援①参照
- ・ 声をかけて一緒に動く

こんなときは…？

イライラしている : イライラの対象から離れる、静かな場所に誘導、冷静になってから話を聞く
こだわりが強い : 本人なりの理由を聞く、今大切なこと（優先すべきこと）を伝える
自分から動けない : 声をかける、一緒に行動する
うまく並べない : 具体的に、順番や並び方を伝える／どうしても待てない時は順番を譲る